

1 教育課程・学習指導

各教科等の授業の状況

・ 説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法で工夫されているか。
・ 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具は活用されているか。
・ 体験的な学習、問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習がされているか。
・ 個別指導やグループ別学習、習熟度に応じた指導、興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習がされているか。
・ ティームティーチング指導などにおける教員間の協力的な指導がされているか。
・ 学習指導要領にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導がされているか。
・ 授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫がされているか。

教育課程等の状況

・ 教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間での共通理解がされているか。	
・ 児童生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組がされているか。	
・ 児童生徒の学習について、観点別学習状況の評価がされているか。	
・ ラーニングセンターの計画的利用や、読書活動の推進の取組がされているか。	
・ 体験活動、学校行事などの管理・実施体制は適切か。	
・ 部活動など教育課程外の活動の管理・実施体制は適切か。	○
・ 必要な教科等の指導体制の整備、授業時数の配当は適切か。	
・ 学習指導要領にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導がされているか。	
・ 教育課程の実施に必要な、各教科ごと等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。	

## 2 キャリア教育(進路指導)

- ・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備されているか。
- ・進路情報について収集し、活用されているか。
- ・進路相談は実施されているか。
- ・児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度の育成のため、体系的・系統的な指導がされているか。
- ・保護者や地域、企業等との連携協力はされているか。
- ・職場体験活動や就業体験活動は実施されているか。

## 3 生徒指導

### 生徒指導の状況

- ・学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
- ・問題行動への対処が適切にされているか。
- ・非行防止対策が実施されているか。
- ・保護者や地域、関係機関等との連携協力はされているか。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談等が行われているか。

### 児童生徒の人格的発達のための指導状況

- ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導がされているか。
- ・保護者とも連携協力し、基本的な生活習慣を身につけさせるための工夫がされているか。
- ・児童生徒の適正を発見し、その能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫がされているか。
- ・豊かな人間関係づくりに向けた指導はされているか。
- ・命の大切さや環境の保全などについて指導されているか。
- ・社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・奉仕・公共心・公德心・情報モラル)について指導されているか。

#### 4 保健管理

- ・ 児童生徒を対象とする保健(心のケア等を含む)に関する体制整備や指導・相談が実施されているか。
- ・ 家庭や地域の保健・医療機関等との連携はされているか。
- ・ 法定の学校保健計画の作成・実施はされているか。
- ・ 学校環境衛生の管理は適切にされているか。
- ・ 日常の健康観察や疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組や健康診断が実施されているか。

#### 5 安全管理

- ・ 法定の学校安全計画や学校防災計画等の作成・実施、体制が整備されているか。
- ・ 危機管理マニュアル等の作成や活用がされているか。
- ・ 安全点検(通学路の安全点検を含む)や教職員・児童生徒の安全対応能力の向上を図る取組がされているか。

#### 6 特別支援教育

- ・ 特別支援学級と通常の学級の児童生徒の交流、共同学習は実施されているか。
- ・ 医療、福祉等との関係機関との連携はされているか。
- ・ 校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名、校内研修は実施されているか。
- ・ 特別支援教育のための校内支援体制の整備がされているか。
- ・ 個別の指導計画や教育支援計画が作成されているか。

## 7 組織運営

・ 校長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、他の教職員からの信頼の状況はどうか。	
・ 校務分掌や主任制が適切に機能しているか。また、明確な運営・責任体制が整備されているか。	○
・ 職員会議は適切に運営されているか。	
・ 勤務時間管理や職免研修の承認状況等、服務管理は適切か。	
・ 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理は適切か。また、教職員へ情報の取扱方針は示されているか。	

## 8 研修(資質向上の取組)

・ 授業研究の継続的な実施など、授業改善に取り組んでいるか。	
・ 校内における研修の実施体制は整備されているか。	
・ 校内研修、校外研修実施状況、参加状況はどうか。	
・ 町費講師、非常勤講師、支援員等の資質の確保・向上に向けた取組はされているか。	○
・ 指導が不適切な教員の状況を把握し、その対応をされているか。	

## 9 教育目標・学校評価

### 教育目標の設定と自己評価の実施状況

・ 児童生徒や学校の実態、保護者や地域の意見・要望を踏まえた学校としての目標を設定しているか。
・ 学校の状況を踏まえ重点化された目標を設定しているか。また、その目標は適切か。
・ 自己評価が年1回以上、定期的に行われているか。
・ 自己評価の結果が、翌年度の目標等の改善へ活かされているか。
・ 全教職員が自己評価に関与しているか。
・ 児童生徒・保護者アンケート等を実施し、自己評価へ活用されているか。
・ 授業評価が実施されているか。
・ 自己評価の結果が設置者に報告されているか。

### 学校関係者評価の実施状況

・ 保護者その他の学校関係者による主体的・能動的な評価が年1回以上実施されているか。
・ 学校関係者評価の評価者に保護者が含まれているか。
・ 学校関係者評価の結果が翌年度の目標等の改善に活かされているか。
・ 学校関係者評価の結果が設置者に報告されているか。

### 学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況

・ 児童生徒・保護者の満足度を把握しているか。
・ 教育相談等の体制、意見・要望を把握する取組がされているか。
・ 授業評価が実施されているか。

## 10 情報提供

・ 学校公開は実施されているか。
・ 児童生徒の個人情報は適切に保護されているか。
・ 学校評価(自己評価・学校関係者評価)の結果は公表されているか。
・ 学校便りや学年・学級便りの発行など、主に保護者を対象とした情報提供はされているか。
・ 広報誌、ホームページを活用し、広く周知するための工夫がされているか。

## 11 保護者、地域住民等との連携

・ 学校運営へ保護者、地域住民等の参画・協力が得られているか。	○
・ 地域住民から寄せられる具体的な意見・要望を把握し、対応しているか。	
・ PTAとの懇談は行われているか。	
・ 地域住民等と連携し、地域の自然や文化、伝統行事などの教育資源を活かした取組がされているか。	
・ 授業や活動に、地域の人材など外部人材を活用しているか。	

## 12 教育環境整備

・ 施設・設備の安全・維持管理のため、点検・整備の取組が行われているか。
・ 教材・教具・図書の整備はされているか。
・ 教育環境の整備は、設置者と連携し実施しているか。

### 13 義務教育学校(信濃小中学校)の特性による評価

・ 9年間の系統性・連続性を強化した教育課程・指導が実施されているか。
・ 学校独自の教科や領域の指導が実施されているか。
・ 多様な異学年交流、リーダー体験が実施されているか。
・ 4・5制による教育効果を把握しているか。
・ 児童生徒のコミュニケーション能力、自己肯定感の状況はどうか。
・ 一貫教育の円滑な実施に必要な組織運営体制となっているか。また、校務の効率化が図られているか。
・ 教職員の負担感、多忙感は緩和されているか。また、緩和させる取組がされているか。
・ 学習上の悩みを抱える児童生徒、不登校・いじめ・暴力行為へ対応する取組がされているか。
・ 小学校・中学校の授業観・評価観が共有されているか。また、指導内容の系統性に関する教職員の共通理解がされているか。

< 信濃町教育大綱 >

全国に誇れる質の高い教育環境づくり  
 多様な学習ニーズと世代間交流を促す環境づくり  
 スポーツ活動が充実したまちづくり  
 安心して子どもを産み育てることのできる環境づくり

基本理念「未来を拓く深い豊かな学びの創造」

文化の薫り高いまちづくり  
 地域全体で子どもを守り育てる教育環境づくり  
 共に生きるまちづくり

学校教育目標

基本理念「信濃町に誇りを持ち、次代を担う人材の育成」  
 ~ 学びに向かう力と温かな人間性の涵養 ~



「自主」夢の実現に向けて追究し続ける児童・生徒

躍進

「友愛」命と仲間を慈しむ児童・生徒

「克己」粘り強く最後までやり遂げようとする児童・生徒

重点と方策(1)「学び」

学ぶ意欲が高まる学習環境づくりと  
 学びに向かう力の育成・体力の向上

具体的な方策

9年間を見通した学習過程のあり方を探ります。  
 「しなのスタイル」(授業スタンダード・授業約束・家庭学習・生活習慣)に基づき一貫した指導を行います。日常的に問いや疑問をもち、適切に解決していこうとする態度を養います。体育の授業や「汗かき元気っこ」等を通して、基礎体力の向上を目指します。朝読書・朝ドリルを通して、落ち着いた気持ちで一日をスタートし「集中・継続・最後までやり遂げる」の心構えを培います。年間を通じて読書を大切に、本に親しみ、本を愛する学校を目指します。

重点と方策(2)「人間性」

温かな人間性の涵養と特別支援教育の充実

具体的な方策

道徳の授業で、考え議論することを通して、自立した人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養います。清掃を通して自らの心を磨き、挨拶・思いやり・感謝の心を意識し、人権感覚を高めます。集団不適合のある児童生徒、特別支援学級入級児童生徒等が安心して生活できる集団をつくります。5年生から部活動に参加し、やり遂げようとする姿を支援します。児童生徒会活動や音楽集会、児童生徒集会等を通して、異学年交流を大切に、温かな人間性をじっくり養います。

重点と方策(3)「ふるさと」

地域と共に歩む学校

具体的な方策

地域を学び、地域で学び、地域と共に学ぶ「ふるさと学習」を進めます。ア地域の「人・もの・こと」に学びながら進んで地域について追究します。イ学年毎に付ける力を明確にし、学年学級独自の活動を大事にします。ウ定期的な報告会において、職員で互いの活動を報告し合い、意見交換を行います。職員それぞれがコーディネーター役として動き、情報交換や連絡調整をして、児童生徒の活動がスムーズに行われるようにします。

校長の願い 「生きて働く力を身につけさせる」

学力の向上

- 学習内容の確実な定着
- 相手意識をもった言動
- 人権感覚を磨き合う集団
- 耐える力
- 困難に立ち向かい乗り越えていくたくましい姿



本校児童生徒の良さと伸ばしたい点

地域の行事に参加し大人とコミュニケーションをとる児童生徒が多い。  
 明るい挨拶ができるようになってきた。  
 友や先生の話最後まで聞くことができるようになってきた。  
 将来の夢や目標を持ってない児童生徒がいる。  
 自分の考えを説明することに苦手意識がある。

地域の支え 「学校運営協議会」「しなの学校応援団」

- 授業支援
- 行事支援
- 児童生徒会支援
- 読書活動支援
- 部活動・クラブ活動支援
- 登下校支援(交通事故、大雪・大雨等の災害、野生動物、不審者等からの安全確保)他



振り返りと検証(PDCA)と評価

- 見直しをもった計画立案
- 全職員で実施
- 児童生徒の育ち・課題の確認
- 次への生かし方の検討
- ・プロジェクトチーム
- ・Nチーム

~ 評価の観点 ~

- ・学校自己評価「授業では『知りたい』『やってみたい』『できるようになりたい』と感じる」と答える児童生徒の割合を増やします。
- ・学校自己評価「自分は、友達の気持ちを考えて行動したり、友達の意見をしっかり聞いたりしている」と答える児童生徒の割合を増やします。





# 平成30年度 教育計画の基本 (案)

信濃町立信濃小中学校長 宮澤 好一

## 1 学校教育目標

基本理念「信濃町に誇りを持ち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養  
自主 友愛 克己 躍進

## 2 目指す子どもの姿

- (1) 自ら求めて学ぶ児童・生徒 ... 「自主」  
(2) 命と仲間を慈しむ児童・生徒 ... 「友愛」  
(3) 最後までやり抜く児童・生徒 ... 「克己」
- ⇒ 自分自身をみつめ、豊かに生きる  
児童・生徒 ... 「躍進」

## 3 重点目標

- (1) 学ぶ意欲が高まる学習環境づくりと学びに向かう力の育成・体力の向上  
(2) 温かな人間性の涵養と特別支援教育の充実  
(3) 地域と共に歩む学校

## 4 重点目標の具現化のために

小中一貫校として開校7年目であり、義務教育学校に移行されて3年目を迎える。これまでの取組の良さを今後も継続しつつ、本年度は、さらに改善を進め、子どもに軸足をのいた教育を全職員で進めたい。

\*安全・安心な学校づくりを継続・・・大きな事故や問題がないのは何よりである。先生方には、安全の日や一斉下校の定着に大変ご苦労いただいている。また、地域の方・PTAの方にも登下校の際には見守っていただき感謝である。冬場の安全指導の徹底を一層図っていききたい。

\*地域の方に支えられた教育活動・・・様々な教育活動の面で地域の皆様の力を借りている。「地域を学び」「地域に学び」「地域と共に学ぶ」という形が定着している。オール信濃町で児童生徒を育成していただける体制に感謝である。

\*児童・生徒の健全な育ち・・・1年生から9年生までが同じ環境のもと生活を共にし、交流を通してお互いが学び合う雰囲気が定着している。

### (1) 学ぶ意欲が高まる学習環境づくりと学びに向かう力の育成・体力の向上

#### ○授業改善

- ・各教師の授業力の向上と授業の三観点（ねらい・めりはり・見とどけ）の徹底。
- ・教師がしゃべらず子どもがしゃべる授業にする。そのためにも、全授業にペア・グループ学習を位置づけ、子どもが自分の考えを発信できるようにする。
- ・金曜日朝にドリルタイムを設定。授業や家庭学習と関連させて、学習内容の確実な定着を図る。
- ・月1回、必ず授業参観をし合い、授業を通しての子どもの学びについて検討し合う。この信濃小中学校で学んだことが今後、転任先でも力となり通用するようにしたい。
- ・長期休業中における個別学習の機会として、プログレス（夏・春）を実施。次学期や次学年の準備として復習や予習を指導したり、定着が不足している内容について補充的な指導をしたりする。

#### ○補助教材の活用

- ・NRTや全国学力調査の結果を分析し、やりっ放しではなく、できない問題を繰り返し解き、定着をさせる指導を充実させる。新年度予算によって、各学年・教科において、ドリル帳や学習プリント等を用意し、授業前のドリルや家庭学習に活用する。

#### ○自分の考えを発信する児童・生徒

- ・音楽集会・全校集会の隊形を全校でコの字型にし、全校がお互いの顔を向かい合わせながら、全校で1つの活動を創りあげるようにする。特に音楽集会では、委員会が中心となり企画運営をし、発表を聴いての感想や考えを発信する場を設ける。今後は地域に公開していきたい。

#### ○家庭学習の充実

- ・家庭学習スタートタイムを午後の学級活動に位置づけ、見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。評価については、家庭にも協力を仰ぎたい。

## (2) 温かな人間性の涵養と特別支援教育の充実

### ○職員間の連携

本校は、町から多くの加配を配置していただいている。多くの職員がいれば、教育効果が上がって然るべきだと考えられる。より多くの効果を上げるためには、職員間（担任と支援員、担任と副担任、担任と教科担任、担任と特別支援担任、担任とリソース担当職員、TT、担任と保健室、異学年間）の連携が大事である。連携の仕方について明確にしていきたいと考えている。新年度は、新年度職員会に時間を設けていきたい。節目には連携会議を位置づけたい。

また、義務教育学校として本校の強みは、1年から9年までの9年間を通して教育活動ができる点である。しかし、やや異学年間の連携やかかわりが希薄になってしまっている。そこで、教務主任が中心となり「職員間の虹を架けようプロジェクト」がスタートしている。（「朝の読み聞かせの担任交代制」「給食の担任交代制」「朝の学活の担任交代制（語る部分）」等。）今後も様々なプロジェクトを通して、1年から9年までの全児童・生徒を全職員で支援する態勢を構築していく。

### ○温かな人間関係づくり

児童生徒同士のかかわりを大事に考え、様々な場や機会を意図的に設定する。友達とかかわる中で、意見の違いなどを理解して折り合いをつける話し合い等の経験を積み重ねることができるようにする。教師は「褒めて、認めて、励ます」ことにより、児童生徒が自信をもつことができるよう支援する。

また、教師はゆったりと構え、子どもの姿を笑顔で見守る。しかし、わがままは許さない。いけないことはいけないという毅然とした態度を全職員が見せる。その指導のあり方は先生方の個性を大切にする。学級・学年づくりにおいては、「正直者が馬鹿を見ない」ようにする。子どもたちは「この先生は、正しい指導をきちんとしてくれる」と見抜き、信頼を寄せてくれる。

本年度から、水曜日昼の集会活動を活発化させ、9年間の児童生徒の心身の発達をより豊かなものにする。音楽集会、児童生徒会、縦割り活動、遊びの時間などを計画的に位置付け、児童生徒同士の多様なかかわりによって、人間関係を豊かにしたり、相手意識をもって人と接したりすることができるようにする。

### 人権教育の充実

人権教育旬間・月間やいのちの教育月間等により、人権感覚の高まりと命の重みや重要性の再確認を行う。また、いじめ・差別を起こさない学校・学級のため、様々な機会を通して、多様な価値観の受容や集団としての人権意識の高揚、いじめ・差別に気づき、なくそうとする態度の育成などに全校をあげて取り組んでいく。日頃から児童生徒の様子をとらえ、心配な時は声をかけるなどきめ細かな配慮を心がけていく。

### 部活動の充実

義務教育学校である本校の特色の一つとして、縦のつながりを生かした高等部の部活動が日常的に実施できることがある。児童の体力や発達段階を十分に考慮した上で、今年度から通年の活動として位置付ける。なお、下校時の安全指導や学年に応じた活動開始時期等への配慮を行う。また、地域を基盤にした合同部活動の「信濃・飯綱モデル」を推進し、可能なところから順次活動の充実を図っていく。

### ○挨拶の響く学校

まずは教師から積極的な挨拶をする。教師は常に清明であることが子どもたちや保護者、地域の方たちに安心感を与える。児童生徒会や初等部による「あいさつ運動」も活発になってきているところ。全校児童生徒、職員で盛り上げていきたい。

## (3) 地域と共に歩む学校

### ○カリキュラムマネジメントによる教科横断的な学習

開校時から積み上げてきた貴重な実践を整理し、教科・道徳・総合的な学習・特活との関連を考えたカリキュラム作りを進めていく。また、各学年の中核となる活動を決め出したり、学年相互の活動内容の検討（重複・発達段階への考慮等）をしたりして、9年間を見通したカリキュラムを作成していく。また、課題解決的な学習により、学習したことを校内・地域へ発信するなどの表現力や、ふるさと学習で学んだことを地域に生かすなどの思考力や判断力を育成していきたい。

### ○「しなの学校応援団」の積極的な活用と連携

地域の方たちには、様々な形で支援をいただいている。

- ・学習支援（習字・調理・裁縫・植物観察等）
- ・スキー支援
- ・クラブ活動支援
- ・ふるさと登山支援
- ・職場体験学習支援
- ・田んぼの活動支援
- ・川の学習
- ・町の歴史学習支援
- ・9年総合的な学習支援
- ほか

つける力に照らして地域の特性を生かした活動を取り入れ、様々な人との関わりを通して自らの生き方を見つめ、ふるさと信濃町に対する誇りを育てていきたい。